

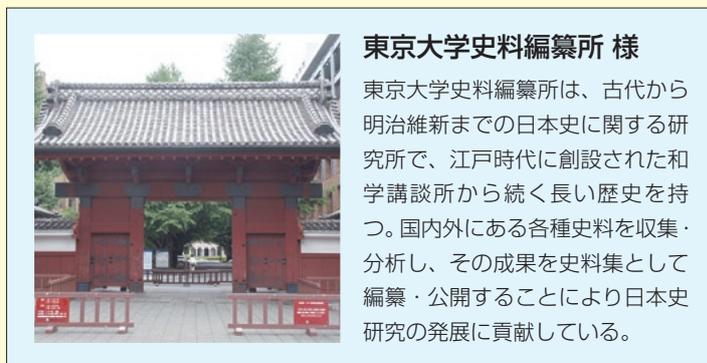


貴重な史料を傷つけずにデータ化し、史料集の編纂作業を効率化 東京大学史料編纂所 様

史料編纂所には各地から収集された膨大な史料が保管され、『大日本史料』をはじめとする史料集の編纂に使われている。傷つきやすい古い書物や古文書の写しを「ScanSnap SV600」を使ってデータ化し、史料集の編纂作業に活用しているという近藤教授にお話を伺った。



東京大学史料編纂所 教授 近藤 成一 様



東京大学史料編纂所 様

東京大学史料編纂所は、古代から明治維新までの日本史に関する研究所で、江戸時代に創設された和学講談所から続く長い歴史を持つ。国内外にある各種史料を収集・分析し、その成果を史料集として編纂・公開することにより日本史研究の発展に貢献している。

さまざまな史料を「SV600」で簡単にデータ化

貴重な史料を分析し史料集を編纂

「9世紀末から明治維新までの出来事に関するありとあらゆる史料を集め、年代順に並べて刊行し、必要に応じていつでも見られるようにする、これが史料編纂所の基本的な仕事です」。近藤教授は古代史料部門に所属し、1221年から1333年までの鎌倉時代の史料編纂を担当している。

史料集の編纂は、ある期間に起きた出来事を古文書の原文を引用しながら整理していく作業だ。例えば仏像が建てられたという出来事であれば、いつ、誰の命令によって建てられたかなどの経緯を寺の記録などから抜き出して順に書いていく。そのために近藤教授は大量の史料を集め、それを参照しながら執筆するが、その中には傷つけたくない貴重な史料もある。戦争中の学術誌など傷みの激しい本や、薄く破れやすい「影写（古文書の上に薄紙を載せてトレースした写し）」など、何度も取り出して読んでいると史料が傷んでしまう。

そこで近藤教授は、史料が傷つくのを防ぐため、一旦コピーしてコピー紙を参照していた。それでも1ページずつ本を裏返してコピー機のガラス面に押し付けてコピーするので、細心の注意が必要になる。さらに必要とする史料も大量なため、コピーに多くの時間と手間がかかっていた。

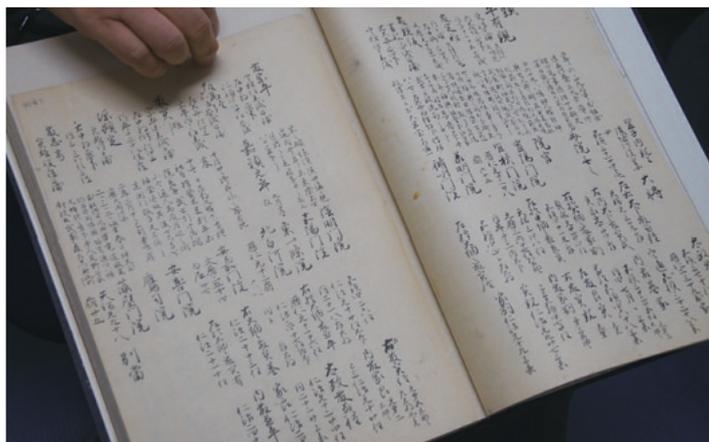


ScanSnap SV600

コピーの代わりに「SV600」でスキャン

このようなコピーの代わりに作業の手間を大幅に軽減してくれるのが、非接触で上から原稿を読み取りデータ化できる「ScanSnap SV600」だ。コピー機のように原稿をガラスに押し付ける必要がないため、作業が楽になるのはもちろん、傷みやすい貴重な史料も安心してスキャンすることができる。

「データ化してPCに保存しておけば場所をとらないし、プリントのようにどこへ行ったか分からなくなることもありません。急に必要になっても書庫まで取りに行かなくて済みます」と近藤教授はその利点を挙げる。



影写が貼りつけられた本

史料データ化の負担を軽減

史料のデータ化は編纂のための準備作業であり、少しでも時間短縮ができればそれだけ多くの時間を編纂に充てることができる。「SV600」は1枚たった3秒で原稿をスピーディーにスキャンできる。さらに本を裏返さずにページをめくるだけで次々にスキャンできるので、コピー機を使ったスキャンやフラットベッドスキャナより時間を大きく節約できる。「SV600」でPDFファイルにしておけば探すのも簡単だ。PDFファイルをマルチディスプレイの一方で表示しながら、もう一方のディスプレイで原稿を執筆することも可能になる。



スキャンの可能性が広がる

近藤教授は絵巻物の複製を広げて「SV600」でスキャンし、ディスプレイに表示して見せてくれた。「ピント精度も高く高解像のスキャンができるため、画像を拡大しても精細に見えます。原本を見るよりもこうして拡大したほうが、これまで気付かなかったことが分かるかもしれません」。

また、非接触でスキャンできることに加えて、「SV600」のLED光源は書物を傷める紫外線や熱を発しないので、これまでコピーすらできなかった傷みやすい書物もスキャンできるようになるかもしれないと「SV600」の可能性に期待している。

編纂作業の更なる効率化のために

近藤教授が編纂している『大日本史料』は今ではデジタル化も進み、Webで検索することも可能になっており、全国の研究者が研究に役立っている。一方、1年分の史料を収録するには3冊必要で、その1冊を出版するのに3年かかり、近藤教授が史料編纂所に来て30年でまだ3年分しか進んでいないというからその苦勞がしのばれる。編纂作業のさらなる効率化を実現するためにも、「SV600」の活躍を期待したい。



画質は十分に実用的

「最初は半信半疑でした」。近藤教授は「SV600」の第一印象をこう振り返った。これまでも書画カメラのようなオーバーヘッド型のスキャナを使ってきたが、部屋の照明や窓からの光などの影響が画像に現れて文字を読み取ることができなかった。「SV600」では外乱光の影響を抑え均一な画像を出力することができる。「データを軽くするため白黒で読み取っているの、古い本だと紙の焼けが多少ノイズとして出ますが、参照用には十分実用的です。高画質のオーバーヘッドスキャナは価格もずっと高く、研究費で高額な機器を購入するのは無理。「SV600」のような手軽な価格で満足できる画質が得られるのはうれしい」と話す。

本のスキャンについては、「分厚い本は指で押さえるのがいちばん簡単だし確実に開いておけます。本を傷める心配も少ない。写り込んだ指の部分は後で「ポイントタッチ」機能を使って簡単に消すというのは賢いやり方だ」という。サイズもコンパクトで自分のデスクに置けるので、使いたいときにすぐに使うことができる。「片手で持ち運べるほどの軽さなので、古文書の収集の現場でも使えるのではないかと期待する。

【著作権について】 著作権の対象となっている新聞、雑誌、書籍等の著作物は、個人的または家庭内、その他これらに準ずる限られた範囲内で使用することを目的とする場合など、著作権法で定められた例外を除き、権利者に無断でスキャンすることは法律で禁じられています。なお業務利用では、著作権者の許諾が必要となることがありますので、著作権法、およびご利用になる企業や団体で定める利用規則等に従って利用して頂くようお願いいたします。

販売店

【お問い合わせ先】 株式会社PFU イメージング サービス&サポートセンター
TEL: 050-3786-0811
<受付時間> 月~金曜日 10時~12時、13時~17時(当社休業日除く)
E-mail: scanners@ml.ricoh.com

ScanSnap に関する詳細はこちら

<https://www.pfu.ricoh.com/scansnap/>